

千葉県

JAL Agriport 株式会社 成田を拠点に農業に挑戦

● 参入のきっかけ・目的

- ・ JALが推進するESG経営のもと、日本の社会課題となっている農業を通じた地域活性化に貢献したい。
- ・ JAL国内線の大半は地方路線であり、その主要産業は第1次産業です。第1次産業が盛り上がれば地域経済の活性化にも繋がり、人やモノの移動も生まれ、航空需要にも結び付くことから農業に参入しました。

● 参入地域（土地）を選んだ理由

- ・ JALはもともと成田国際空港を中心に国際線を運航しており、成田空港とともに発展してきました。
今回の農業参入においても、その成田の地を選び、成田空港の近くで農地を探しました。現在、複数の地権者から約3.5haの農地を借り受けています。

● 主な販路

- ・ いちご、じゃがいも、ブルーベリー、ぶどう、さつまいもは観光農園での収穫体験や直売、自社レストランで活用しています。また、令和6年からはいちごの輸出を行っています。さつまいもは、芋焼酎に加工し、空港売店や機内販売、小売店などで販売しています。

● 本業との相乗効果

- ・ 観光農園には、成田空港を利用するインバウンドのお客さまもいらっしゃいます。
- ・ 空港に近接した立地を活かし、空輸による輸出にも取り組んでいます。

いちごハウスと収穫物



古民家風レストラン
「DINING PORT 御料鶴」



● 自治体等からの支援

- ・ 設立当初に共同出資者であった農業法人のほか、近隣の農業者からも栽培技術などの指導を受けました。

● 参入して苦労したこと

- ・ 農地の確保。
- ・ 夏前のハウス内でのいちごの抜根作業は、肉体的にかなりきつい作業でした。
- ・ 課題としては、現状の観光農園の規模では、栽培面積が小さいこと。いちごをメインとしている中では、夏場の収入源を確保する必要があること。輸出では、海外販路の開拓に腐心しています。

● 参入した成果

- ・ 開業がコロナの時期と重なり、令和6年度から何とか軌道に乗り始めたところ。令和6年度はインバウンドを含めて約1.5万人の来園がありました。

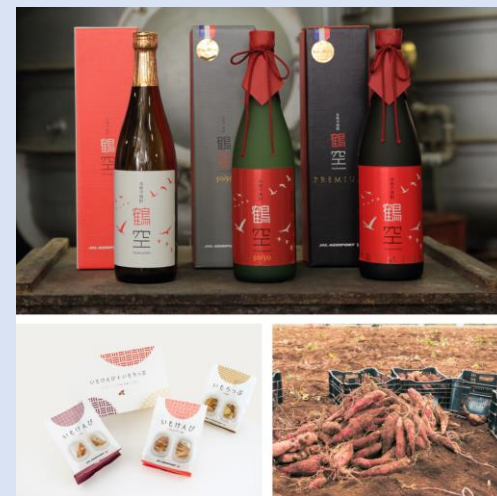
● 今後の展望

- ・ 他の農業者とも連携し、輸出の拡大を図りたい。
- ・ 農業を通じた環境事業にも挑戦していきたい。

● 詳しい情報はこちら（会社HP）

» [果物・野菜の収穫体験](#) | [JAL Agriport株式会社](#)

さつまいも加工品



いちご



★ 概要 ★

法人設立：2018年
栽培作物：いちご、さつまいも等

経営面積：約3.5ha
職 員（農業）：8名（委託先スタッフを含む）